

ぼくのとなりの

Wild grass next to me

野草

上野邦雄

KUNIO UENO

part 2

青山ライフ出版



# はじめに

## 一身近な野草Part2で思うこと一

2冊目の『ぼくのとなりの野草』を出すことにしました。何でこんな図鑑ともいえない変な本をと思いながら…。

その思いを動かしたものは32年間の教職生活と自然への想いが大きかったと感じています。

クラスには、いろいろな子どもたちがいます。一人ひとり小さな人として同じ目線で接し、理科や算数、国語の授業を通して、知識や生き方を伝えていたと思います。元気すぎる子、おとなしい子、心が敏感な子、まだ人の気持ちが理解できない子、心の優しい子…。子どもとは言え人の集団です。小さなけんかや悪戯は毎日起こっても不思議ではありません。一人ひとり皆少しずつ違うのですから…。

校庭や道端で見られる同じタンボボでさえ、日なたや日陰、湿った所や乾いた所、芝にあるものや道路沿いにあるもの。花の大きなもの小さなもの、みんな少しずつ違います。人も野草も同じような気がしました。

子ども一人ひとりの行動や気持ちを観察しながら、心の中を推測していくことと言葉の通じない野草の気持ちを理解することに、何かしら通じるものを感じました。同じ命を持つ心ある生き物だからでしょうか。

この小さな大人と野草は、ぼくにとっては同じ時代を生きる大切な仲間なのです。この子たちも今は二十歳を過ぎ、しっかり生活していると信じています。

いろいろな事を気付かせてくれた「ぼくのとなりの生徒たち」と足元にある「それぞれの野草」に感謝を込め、この本を出すことにしました。

子どもたちにお願いした「この世界から戦争や飢え、病気」が一日でも早くなくなることを願いながら…。

ユキノシタ



イチリンソウ・ニリンソウ



## 白花たちのつぶやき

いつもは黄色や水色、ピンク色だったりするぼくたちも稀に白色の花を咲かせる時があります。めずらしいこともあります。採られることも多く、ますます数が少なくなっています。人も動物も草もみんな生き物です。友達や知っている人がいなくなると悲しく、寂しいのもみな同じです。街中やその少し外側に静かに暮らしているぼくたち白花の仲間を探らないで、見るか声かけだけにしてください。

金子みすゞの詩の中に「みんなちがって、みんないい」という言葉があります。そう、ぼくらはみんな違って同じように咲いているのです。

白花のカラスノエンドウ  
とカラスノエンドウ

江戸川の土手で仲良く  
しています



白花のツユクサ  
とツユクサ

流山の休耕田のわきで  
風を相手に遊びます



白花のミズヒキ  
(別名ギンミズヒキ)  
とミズヒキ

流山の神社の林のわきで  
静かに暮らしています



白花のムラサキサギゴケ  
(別名サギゴケ)  
とムラサキサギゴケ

21世紀の森と広場で  
みんなとのんびりして  
います



白花のトキワハゼ  
とトキワハゼ

流山の畠のわきで  
日光浴を楽しめます



シロバナタンポポ  
とカントウタンポポ

江戸川の土手や21世紀の  
森と広場で4月初めに  
春の到来を知らせます



白花のシラン  
とシラン

庭から逃げ出して道端  
や空き地で誰が来ても  
知らんぷり



# ノコンギク キク科

〔出会いどころ〕 山野の日当たりのよい草地や空き地、道端。

## 〔主な特徴〕

- ・多年草。茎は直立する。  
草の高さは50～100cm。
- ・茎の色は淡い緑色。
- ・葉は互生する。葉の手触りはざらつく。
- ・頭花の大きさは約2.5cm。  
(花期) 8～11月、花の色は中央の管状花が黄色で、外側の舌状花は淡い青紫色か白色。

## 〔学校での利用〕

- ・舌状花のつくりを調べるのに適している。

## 〔豆知識〕

- ・名の由来は、コンギク(観賞用)に似ているが、野原に生えることから。
- ・花の様子が似ているものとしては、ヨメナ、カントウヨメナ、ユウガギクがある。ヨメナは西日本に多く、頭花の大きさは約3cm。カントウヨメナは名の通り関東地方に多く、頭花の大きさは約2.5cmでほぼ本種と同じだが、葉はざらつかない。ユウガギクは近畿地方から東北に多く、頭花の大きさは約2.5cm。葉は本種より鋸歯が多く、切れ込みもやや深い。舌状花は白色が多い。
- ・東葛飾地区ではカントウヨメナが一番多くみられる。ヨメナは自生していないと思われる。



(写真提供 大竹 美子)

ノコンギクの花



カントウヨメナの花

